

2015年から相続税の課税が強化される。読者モニターにアンケートを実施したところ、相続税対策を実行したことがあるか、これから実行する予定があるとの回答が53%に達した。具体策が多かったのは、基礎控除(非課税枠)の範囲内の贈与、早い時期に計画的に相続財産を減らすこと、残される家族にかかる税負担を減らすことと意識が高い。

日経生活モニター調査

読者モニターに相続税の課税が強化される。読者モニターにアンケートを実施したところ、相続税対策を実行したことがあるか、これから実行する予定があるとの回答が53%に達した。具体策が多かったのは、基礎控除(非課税枠)の範囲内の贈与、早い時期に計画的に相続財産を減らすこと、残される家族にかかる税負担を減らすことと意識が高い。

年110万円控除枠を活用

に贈与してあげ、相続税の資産が減る分、相続税を減らす効果がある。千葉県(54)は、相続税の主簿(54)は、相続税の範囲内に110万円を贈与する予定、という。住宅購入用の資金を贈与した場合、最高1000万円の非課税枠がある。同制度の利用については、経験が計画がある人は25%、年金で暮らす東京都の男性(77)は昨年、「長男のマシヨ」購入資金として約1000万円を贈与した。教育資金向けで認められる1500万円の非課税枠については、24%が利用の経験が計画がある。大阪府の男性(88)は、同制度を活用してこの年間600万円を贈与した。増額も考えている」とい。「生命保険を利用する」と回答した人は22%だった。自分が保険料を負担し、子どもなどを受益人にしておくと相続税を軽減でき

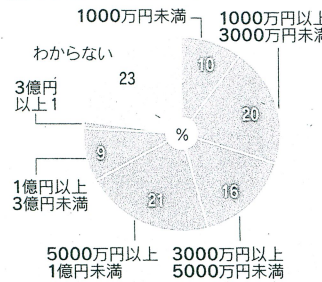
る。死亡保険金は500万円×法定相続人の数の非課税枠があるため。香川県の男性公務員(53)は「一時払い終身保険への加入を検討している。自分の親が亡くなったときの経験から「生命保険は受け取る側の手続きが簡単で、自分の葬儀代にも充てやすい」と考えるためだ。金融資産に比べ、不動産は分けるのが難しい。神奈川県(42)は「実家を兄弟でどう分けるかが最大の難題」という。東京都の女性公務員(42)は「相続で分けやすいように、母が家族で相続や相続税について「すでに話し合った」人は19%。「話し合いたい」が、まだ話し合っていない」が59%だった。遺言を書いた人は8%。「書きたくない」が37%。「決めていない」が35%を占める。大切だと思いつつも踏み切れない人も多い。話し合いや遺言書は、お世話を避けるのに大切。相続を経験したことがある人のうち29%が「争いやトラブルがあった」と回答。17%は「家族や親族の中が悪くなった」としている。お世務に関する経験も、多く寄せられた(表D)。

「新たに課税」17% 法改正に伴い、自己や家族の相続が新たに課税対象になり、その割合は17% (グラフB)。現行でも課税対象という人(22%)と合わせ、相続税を払う見込みの人は39%に達した。現行では非課税だが、来年は分らない人も21%いた。相続税対策について実施状況を聞いた。子供や配偶

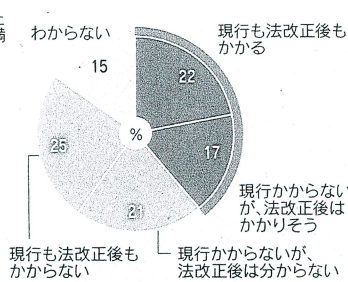
調査は「日経生活モニター」に登録する読者対象に10月11～15日に実施した。有効回答数は919人。相続税の課税対象者は来年から増える見通し。法改正で基礎控除(非課税枠)が現行より4割削減されるため。例えば、夫が亡くなり妻と2人の子供が相続する場合、現行では遺産が8000万円を超すと課税されるが、来年からは4800万円を超えて課税される。読者モニターに相続財産の見込みを聞いたところ、「5000万円以上1億円未満」が21%と多く、「1000万円以上3000万円未満」(20%)が続いた(グラフA)。財産のうち最も比重が大きいのは「自宅の土地・建物」で、59%。「預貯金」は21%、株や投資信託などの「金融商品」は12%だった。

相続税対策「こつこつ贈与」

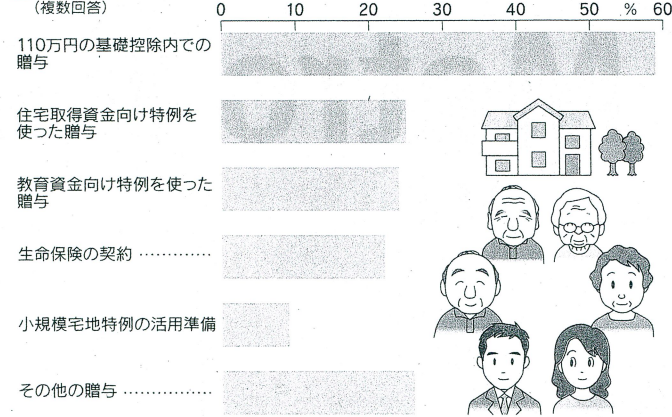
A 相続財産の見込額は？



B 相続税はかかる見通し？



C 相続税対策の中身は？



D 相続でもめたとの声も

- 親の面倒をみた次男の相続分が多く、兄弟間の仲が悪くなった(東京都、50代男性)
- 分割協議の最終盤に「全部自分がもらう」と言い出した者がいて相続税の納付期限に間に合わず(神奈川県、50代女性)
- 遺言に書かれた金額が残っておらず、兄弟でけんかになった(京都府、30代女性)
- 父が亡くなった後、借金の連帯保証人になっていることが分かった(兵庫県、50代男性)
- 知らないうちに兄嫁が養女になっていた。私と兄と兄嫁で相続することに(神奈川県、50代女性)

「不安がある」45% 相続問題への意識を聞いたところ「不安がある」との回答が全体の45%と不安はない(27%)。「不安はそれほどない(18%)」を大きく上回った。群馬県の女性派遣社員(56)は「実家が立地の良い所にあり法改正で課税額が増える見通し。高齢の父親は判断能力が低下しており、生前贈与などの対策は難しい」のが悩みだ。家族で相続や相続税について「すでに話し合った」人は19%。「話し合いたい」が、まだ話し合っていない」が59%だった。遺言を書いた人は8%。「書きたくない」が37%。「決めていない」が35%を占める。大切だと思いつつも踏み切れない人も多い。話し合いや遺言書は、お世話を避けるのに大切。相続を経験したことがある人のうち29%が「争いやトラブルがあった」と回答。17%は「家族や親族の中が悪くなった」としている。お世務に関する経験も、多く寄せられた(表D)。

持っていた不動産を数年かけて売却した。

「不安がある」45%

相続問題への意識を聞いたところ「不安がある」との回答が全体の45%と不安はない(27%)。「不安はそれほどない(18%)」を大きく上回った。群馬県の女性派遣社員(56)は「実家が立地の良い所にあり法改正で課税額が増える見通し。高齢の父親は判断能力が低下しており、生前贈与などの対策は難しい」のが悩みだ。家族で相続や相続税について「すでに話し合った」人は19%。「話し合いたい」が、まだ話し合っていない」が59%だった。遺言を書いた人は8%。「書きたくない」が37%。「決めていない」が35%を占める。大切だと思いつつも踏み切れない人も多い。話し合いや遺言書は、お世話を避けるのに大切。相続を経験したことがある人のうち29%が「争いやトラブルがあった」と回答。17%は「家族や親族の中が悪くなった」としている。お世務に関する経験も、多く寄せられた(表D)。

持っていた不動産を数年かけて売却した。

「不安がある」45%

相続問題への意識を聞いたところ「不安がある」との回答が全体の45%と不安はない(27%)。「不安はそれほどない(18%)」を大きく上回った。群馬県の女性派遣社員(56)は「実家が立地の良い所にあり法改正で課税額が増える見通し。高齢の父親は判断能力が低下しており、生前贈与などの対策は難しい」のが悩みだ。家族で相続や相続税について「すでに話し合った」人は19%。「話し合いたい」が、まだ話し合っていない」が59%だった。遺言を書いた人は8%。「書きたくない」が37%。「決めていない」が35%を占める。大切だと思いつつも踏み切れない人も多い。話し合いや遺言書は、お世話を避けるのに大切。相続を経験したことがある人のうち29%が「争いやトラブルがあった」と回答。17%は「家族や親族の中が悪くなった」としている。お世務に関する経験も、多く寄せられた(表D)。

持っていた不動産を数年かけて売却した。

「不安がある」45%

相続問題への意識を聞いたところ「不安がある」との回答が全体の45%と不安はない(27%)。「不安はそれほどない(18%)」を大きく上回った。群馬県の女性派遣社員(56)は「実家が立地の良い所にあり法改正で課税額が増える見通し。高齢の父親は判断能力が低下しており、生前贈与などの対策は難しい」のが悩みだ。家族で相続や相続税について「すでに話し合った」人は19%。「話し合いたい」が、まだ話し合っていない」が59%だった。遺言を書いた人は8%。「書きたくない」が37%。「決めていない」が35%を占める。大切だと思いつつも踏み切れない人も多い。話し合いや遺言書は、お世話を避けるのに大切。相続を経験したことがある人のうち29%が「争いやトラブルがあった」と回答。17%は「家族や親族の中が悪くなった」としている。お世務に関する経験も、多く寄せられた(表D)。

持っていた不動産を数年かけて売却した。

「不安がある」45%

相続問題への意識を聞いたところ「不安がある」との回答が全体の45%と不安はない(27%)。「不安はそれほどない(18%)」を大きく上回った。群馬県の女性派遣社員(56)は「実家が立地の良い所にあり法改正で課税額が増える見通し。高齢の父親は判断能力が低下しており、生前贈与などの対策は難しい」のが悩みだ。家族で相続や相続税について「すでに話し合った」人は19%。「話し合いたい」が、まだ話し合っていない」が59%だった。遺言を書いた人は8%。「書きたくない」が37%。「決めていない」が35%を占める。大切だと思いつつも踏み切れない人も多い。話し合いや遺言書は、お世話を避けるのに大切。相続を経験したことがある人のうち29%が「争いやトラブルがあった」と回答。17%は「家族や親族の中が悪くなった」としている。お世務に関する経験も、多く寄せられた(表D)。

持っていた不動産を数年かけて売却した。

「不安がある」45%

相続問題への意識を聞いたところ「不安がある」との回答が全体の45%と不安はない(27%)。「不安はそれほどない(18%)」を大きく上回った。群馬県の女性派遣社員(56)は「実家が立地の良い所にあり法改正で課税額が増える見通し。高齢の父親は判断能力が低下しており、生前贈与などの対策は難しい」のが悩みだ。家族で相続や相続税について「すでに話し合った」人は19%。「話し合いたい」が、まだ話し合っていない」が59%だった。遺言を書いた人は8%。「書きたくない」が37%。「決めていない」が35%を占める。大切だと思いつつも踏み切れない人も多い。話し合いや遺言書は、お世話を避けるのに大切。相続を経験したことがある人のうち29%が「争いやトラブルがあった」と回答。17%は「家族や親族の中が悪くなった」としている。お世務に関する経験も、多く寄せられた(表D)。

持っていた不動産を数年かけて売却した。